

平成22年度一般会計当初予算説明資料

10 款 教育費
6 項 社会教育費
4 目 博物館費

博物館 (0857-26-8042)
(単位：千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
企画展開催費	82,880	79,085	3,795			(使用料) 10,600 (諸収入) 15,000	57,280	
トータルコスト	115,152千円(前年度：108,911千円) [正職員：4.0人、非常勤職員：6.6人]							
主な業務内容	企画展の開催							
工程表の政策目標(指標)	入館者の増(平成22年度：入館者数6.1万人)							

事業内容の説明

1 事業の概要

鳥取県の自然・歴史・美術に関するものや世界的・全国的に貴重なものについて、資料、作品と研究成果等を企画展として広く県民に紹介する。

2 事業の内容

企画展名	予算額	会 期	内 容
楊谷と元旦	11,900	平成22年 5月22日～ 6月20日	江戸時代の鳥取を代表する画家・片山楊谷と、同じく写生派の画家として知られる島田元旦の画業に、強い影響を与えたと考えられる谷文晁や中国画などとともに展示し、紹介する展覧会。
シーラカンス展 —ブラジルの化石と大陸移動の証人たち—	20,458	平成22年 7月17日～ 8月29日	「生きている化石」シーラカンスを通して、太古の海の世界や大陸移動の歴史を紹介する展覧会。世界最大のシーラカンス化石や約2,000点の魚類化石、シーラカンスの貴重な生態映像等を展示する。 【大陸移動に関連して、山陰海岸ジオパークの特徴である日本海の成り立ち等のジオ関連資料等も併せて展示紹介する。】
海と生きる	15,635	平成22年 10月9日～ 11月14日	「鳥取の人々と海との関わり」を紹介する展覧会。生産活動や交通、文化交流において海が果たした役割は大きく、江戸時代を中心に県内外に残る資料から明らかにする。
生誕100年 彫刻家 辻晋堂展	27,915	平成22年 11月27日～ 平成23年 1月10日	鳥取県出身の彫刻家・辻晋堂(つじ・しんどう 1910年～1981年)の生誕100年を記念し、彫刻のありようを常に問い続けた辻の全体像を、代表作を中心とした約100点の作品により紹介する展覧会。
毛利 彰展	6,364	平成23年 2月26日～ 3月27日	鳥取市出身の毛利彰(もうり・あきら1935年～2008年)の画業を、伊勢丹宣伝部時代から独立してオリジナル作品を手掛けていく晩年の作品により紹介する展覧会。
H23(仮称) パリに学んだ鳥取の画家—森岡柳蔵とその周辺	608	平成23年 4月4日～ 5月8日	県中部出身の洋画家・森岡柳蔵の没後50年にあたり、その画業を紹介する展覧会。代表作を展示するとともに、近年確認された資料により師の黒田清輝との関係などを紹介する。
合 計	82,880		

3 これまでの取り組み状況、改善点

【指標】平成21年度目標入館者数 6.0万人 → 【現状】5.5万人(12月末)
入館者数全体では順調に進んでいるが、企画展の分野・内容により入館者数に差がある。企画展の内容については、来館者の90%以上の方から「満足」、「大変満足」という高い評価をいただいている。

今後の入館者の増につなげるため、

① 21年度に行った電子アンケートによる県民ニーズも参考にした魅力ある企画展の計画

② 広報活動範囲の拡大及び早い時期からの周知活動の開始

などの活動を実施する。